

事業活動実績報告書

施設名	明昭第二幼稚園
教育理念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。

1 事業名	子どもたちの感覚・感性、想像・創造力を育む造形活動
2 実施期間	令和 7年 6月11日 ～ 令和 8年 3月 6日

3 取組概要	（取組日） 令和7年 6月11日 ～ 令和7年 6月11日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年中4歳児 えのぐ落書き遊び(2階ホール) 2クラス合同 60分の活動。天候の影響でホールで実施。 赤・青・黄・黒のえのぐを使い、ホールにブルーシートを敷き、その上にダンボールの道や大きな箱(中に入って描ける)を設置し、自由に描いて遊ぶ。子どもたちは個人用画用紙以外のものに初めて描く。最初は戸惑っていたが、いろいろなところにのびのびと思い切り、模様や絵を描く。描いた絵を見せ合う、一緒に描くなどの姿が見られた。えのぐを混ぜ、偶然できた色に驚く子、色づくりに夢中になる子もいた。色を混ぜすぎ、黒ずんだ色になった部分もある。えのぐは紙コップに水を入れて溶き、細・太筆を1本もって描いた。 
	（取組日） 令和7年 6月13日 ～ 令和7年 6月13日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長5歳児 えのぐ落書き遊び(園庭) 3クラス合同 70分の活動。 赤・青・黄・黒の絵の具を使って、混色でいろいろな色をつくり、園庭に敷いたダンボールの道や大きな箱(中に入って描ける)に自由に楽描(ラクガキ)をする。はじめは好きなえのぐを使っていた子どもたちだが、いろいろな色を作って楽しむようになった。偶然出来上がった色を楽しんだり、この色を作ろうと考えながら色づくりをする姿が見られた。好きなところに、友だちと一緒に絵を描いたり、出来上がった色に驚いたり、互いに見せ合ったりする様子が見られた。のびのび活動し、生き生きした子どもたちの楽しそうな表情が印象に残った。 
	（取組日） 令和7年 7月 1日 ～ 令和7年 7月 1日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年少3歳児 「フィンガーペインティング」(指えのぐ遊び) クラスで 50分の活動 えのぐスモックに裸足で活動。床にブルーシートを敷き、テーブルごとに6グループに分かれ、テーブルにビニールシートを敷き、その上に模造紙を貼り活動する。洗濯のりの入ったえのぐを1色、模造紙の上に垂らし、指で自由に伸ばし、感触を楽しむ。次に3色の絵具で自由に遊び模様が出来るのを楽しむ。その上に個人用の白画用紙(大判)を置き、模様を写しとり、乾かし、展示する。活動後は屋外の水を入れたバット(ふね)で足を洗う。友だちと一緒にのびのびと活動を楽しんだ。感触が苦手な子は先生と一緒に描き、少しだけ経験する。 
	（取組日） 令和7年 8月27日 ～ 令和7年 8月27日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年少3歳～年長5歳児 『ゆらゆら動くモビールをつくろう』 ホールで実施。60分の活動。 3～5歳児の親子15組が参加しての活動。A4サイズの白ダンボール紙に好きな絵を描き、切り取りモビールに吊るす。パンチで穴をあけ、タコ糸で木の枝に吊るしていく。大きな枝と小さな枝2本を用意し、大きな枝の両端に小さな枝を吊るし、小さな枝に絵を描いたダンボール片をぶら下げる。ひもを通しダンボール片を枝に吊るし結び、枝のバランスを考え、作る部分を保護者が行い完成させる。年長5歳児が年少3歳児の面倒を見たり、保護者が行う作業を手伝う場面や他児のモビールに興味を持ち、互いに見せあう姿が見られた。 

3	取組概要	(取組日) 令和7年 8月28日 ～ 令和7年 8月28日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年少3歳～年長5歳児 『顔出しパネルをつくろう』 ホールで実施 90分の活動。 3～5歳児の親子20組が参加しての活動。子どもが隠れる大きさのダンボール板に好きな絵を描き、顔を出す部分を丸く切り抜き、親光地で見かける顔出しパネルを作る。絵を描き、色塗をするのは子どもたちで、保護者は顔出し部分を丸くカッターで切り抜いたり、色塗を手伝う。出来上がったパネルをテーブルでつなげ、全員で鑑賞し、他児がつくったものからも顔を出して楽しむ。大きなダンボールに絵を描く楽しさを味わう。4. 5歳児は顔をくり抜くところを考えて描き、3歳児は保護者や姉兄が助言し手伝う。作品に違いや個性が見られた。	
		(取組日) 令和7年10月22日 ～ 令和7年10月22日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年少3歳児 「新聞紙ビリビリ!! 新聞紙であそぼう」 クラスごと 50分の活動 新聞紙を体全体でビリビリ破ったり、丸めたりしながら音や感触を楽しむ。洋服やふとんに見立てたり、剣を作ったり、想像しながら自由に楽しむ。五感を刺激し、体の動きを促し、創造力を養う。細長いダンボールをつなげた丸い枠を床に置き、新聞紙を入れ、お風呂やプールに見立て中に入り、泳いだりして遊ぶ。講師がダンボール箱を抱えて動きまわり、追いかけて箱に丸めた新聞玉を入れて遊ぶ。新聞紙の感触や気持ちを共有し、みんなで遊ぶ楽しさを味わう。新聞紙をお腹にいれてたたくなど自由に遊ぶ姿も見られた。	
		(取組日) 令和7年10月29日 ～ 令和7年10月29日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年中4歳児 紙粘土で顔の飾り壁かけをつくろう クラスで実施。60分の活動。 紙粘土をお団子の大きさに丸め、紙皿の上に並べて、自分やキャラクター(ピカチュウやドラえもんなど)、動物など好きな顔を作る。ドットで動物を表した絵本『どっこ どうぶつえん』に刺激を受け、ドットではなく紙粘土を丸めたお団子の立体で考えながら作っていく。顔を作った後で、えのぐで色を塗ったり、ビーズをつけたりする。お団子を並べた個性的でユニークな立体的な顔が出来上がる。イメージしたものを工夫し、考える力、表現する力が育った。平面的に絵を描くのとは違った立体表現の面白さを味わい、表現の幅が広がった。	
		(取組日) 令和7年11月12日 ～ 令和7年11月12日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 満3歳児 「紙皿でおさかなをつくろう」 クラスで実施。40分の活動。 紙皿を1枚ずつ配り、子どもの様子を見ながら手順を伝え、援助しながら活動する。紙皿の一部を三角に切り落とし何に見えるか形あそびをした後で、講師がつくった魚を見せ、活動を始める。紙皿のくぼみが口に、切り落としたものをしっぽにして紙皿に貼る。紙皿を切る作業は講師や保育者4名が行う。魚の目や魚の模様もいろいろな色のまるシールを選び、紙皿に自由に貼りつける。出来上がった魚を互いに見せ合い、作った魚を持ち、講師を先頭にみんなでクラスの中を泳ぎまわり、魚になりきって楽しむ。活動後はクラスに飾る。	
		(取組日) 令和7年12月11日 ～ 令和7年12月11日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年長5歳児 紙コップタワーで遊ぼう(ホール) 3クラス合同 70分の活動 1人30個の紙コップを使い、1個ずつ、どれくらい高く積めるか競争。いろいろな積み方を楽しむ。4. 5人のグループで全員の紙コップを使い、協力して積み上げ、タワーづくりをする。塔やお城、家などいろいろな形をつくり、中に入ったりして楽しむ。崩れてもやり直し、協力して完成させる。グループで楽しんだ後、出来上がったものをみんなで鑑賞する。鑑賞後に各グループで作ったものを紙コップでつなげ、解体する。解体して散らばった紙コップを床に置き、集めてつなげ輪を作る。全員が輪の中に入り話を聞き、紙コップを片づけ終了。	

3 取組概要

(取組日) 令和8年 1月 9日 ~ 令和8年 1月 9日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
年長5歳児「ストロンボをつくってあそぼう」 クラスで実施。60分の活動 牛乳パックを細く切り翼にし、ストローを軸にした紙製竹とんぼ(ストロンボ)を作成。羽となる部分を同じ大きさに2枚作り、重ね合わせ羽をつくり、ストローの軸にビニールテープを巻いてつくる。羽の両端を折り曲げる。曲げる方向や角度により飛び方が異なる。竹とんぼのように飛ばして遊ぶ。何度も試し、コツを掴んでいく。飛んだ距離競争や園庭でのびのび飛ばして遊ぶ。作ったもので遊ぶ楽しさを存分に味わう。	
(取組日) 令和8年 2月26日 ~ 令和8年 2月26日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
年少3歳児 ボイスチェンジャーであそぼう クラスで実施。50分の活動。 紙コップとアルミホイルを使って声が変わるボイスチェンジャーを作る。底が空いた紙コップにアルミホイルを両面テープで接着し、マスキングテープで縁取る。コップの底の方を口にあてしゃべると声が変わる。自分の声や友だちの声が変わる様子を楽しむ。講師が作ったボイスチェンジャーを見た後で、自分の紙コップの白い部分にマーカーで自由に絵を描き、作り始める。完成後に耳を寄せ合い友だちの声を聞く姿も見られた。	
(取組日) 令和8年 3月 6日 ~ 令和8年 3月 6日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
年中4歳児「紙皿コマであそぼう」 クラスで実施。60分の活動。 紙皿を配布し、コマをつくることを伝え、講師がつくったものを見せる。紙皿にマーカーでいろいろな色で模様を描く。回るとどのような模様になるか考えたり、偶然にできた模様を楽しむ。光るシールも貼る。ペットボトルのフタを紙皿の中心に接着する。竹串を短く切って作った芯棒を接着し、コマが完成。つまみを持って回して遊ぶ。力の入れ具合、回し方、速度を考えながら、誰のコマが一番長く回るか競争して遊ぶ。	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	明昭第二幼稚園
教 育 理 念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性・発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。

計 画 時	事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
		健康 ○	人間関係 ○	環境 ○	言葉 ○	表現 ◎
	1 事業名	子どもたちの感覚・感性、想像・創造力を育む造形活動				
	2 事業概要	造形講師(松枝秀晴氏)による年15回(満3歳児1回、年少、年中、年長各3回、ワークショップ2回)の造形活動。素材に触れ、廃材等の材料・道具を使用しての製作活動、作ったもので遊ぶ活動を行う。感覚遊びや造形表現あそび、ダイナミックな活動を中心に展開する。日常保育の中でも活動を継続・広げていく。松枝講師以外にも子どもたちの育ちが期待されるワークショップがあれば参加利用する予定である。				
	3 対象学級(クラス名) 対象人数	満3歳児、年少2学級、年中2学級、年長3学級、全8学級 (クラス名:つばみ、たんぼぼ、ひまわり、もも、さくら、つき、ほし、やま)				176 名
計 画 時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・取組に必要な人員:造形講師、担任と保育助手2名、職員室教諭。 ・活動場所:クラス、園庭、2階ホール。 ・素材、道具:活動に必要なダンボールや廃材、シール、絵の具、ハサミ、接着剤など。 ・年間計画をたて、年齢や時期にあった活動、経験を活かした活動を行う。園行事の作品展への助言や指導、ワークショップを通しての異年齢活動、保護者参加の活動を行う。 ・技能、ノウハウ:講師独自の導入法、素材の活かし方(指えのぐ、シャボン液、技法)、園庭・ホールでのダイナミックな活動を展開する。				
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・取組に必要な人員は適切に配置でき、子どもたち一人ひとりの援助が出来た。・活動場所もスペースの確保や活動に集中できる環境をつくることが出来た。・年齢に応じ、いろいろな素材にふれる工夫をする。えのぐを使った活動も年齢を考慮して行い、前年の経験を活かすことが出来た。3、4歳児は製作したものを作品展に飾り、5歳児は造形講師の来園時にグループ製作のアドバイスをいただく。ワークショップは異年齢活動の機会となり、保護者の援助のもと、出来上がったものを互いに見せあうなど刺激を得たり、5歳児が3歳児を手伝うなど、助け合う姿も見られた。各活動は担任と講師が話し合いながら年間計画を立て、計画的に実施出来た。子どもたちに興味や関心を持たせる講師の導入法や素材の提供などを今後も保育活動にも活かしたい。学年全体でダイナミックな活動(園庭での絵具あそびや紙コップタワーなど)を展開出来た。大きなダンボールに思いきり絵を描くなど、日常の保育では体験出来ない活動を行えた。3学期は作ったもので遊ぶ活動を行った。造形活動で芽生えた興味や関心を日常の保育に広げて行きたい。			
	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・ホールや園庭など広いスペースで素材を思い切り使い、のびのび描く、紙コップでタワーをつくるなどダイナミックな活動ができ、話しあいながら、協力しあいながら表現する楽しさを味わえた。広い場所でダンボールや大きな紙に描くことで、のびのびと活動し、心も体も開放され、心身の健康につながった。全員での共同・協同活動により互いに刺激しあいながら、想像力・創造力が広がった。3学期に行う、作ったもので遊ぶ活動は手順を聞き、自力で制作することで自信と最後までやり抜く力が育まれた。作ったもので遊ぶ楽しさや作り方によって飛び方、回り方、模様や音が違うことに気づき、自分で工夫し、考え、試し、確かめ調整する姿も見られた。探究心を持って、繰り返し遊ぶことで、よく飛ぶコツ、コマを回すコツなども身につけて行った。・1学期の5歳児の絵具の落書き遊びは、2学期のイメージを共有し、みんなで作る作品展のグループワークにつながる体験で、話し合ったり、意見を出し合ったりして、一つの目標に向かってイメージを共有・調整する協同性の育成につながった。・イメージが広がり個性豊かに表現される題材、活動を講師と検討し、今後も行って行きたい。			

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・内容について5月に検討。 ・園庭や2階ホールを使用し、感覚、感触を楽しむダイナミックな活動をする。例)フィンガーペインティングや園庭でのえのぐ遊び、新聞遊びなど。 ・協力して作り上げる活動 例)紙コップタワー、5歳児作品展共同製作など ・作ったもので遊ぶ 例)飛ばす(ストロンボ、飛行機)、紙ゴマ、ボイスチェンジャー ・紙粘土、廃材を使って作る活動 例)動物、花瓶、飾り(リース)など。一人ひとりの個性や違いに目を向けながらのびのび活動する。クラスでは味わうことができないダイナミックな活動や共同作品づくりをする。親子・家族参加の造形活動(ワークショップ)を行い、みんなでつくる楽しさを味わう。興味・関心を家庭へも広めていく。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ・積み重ねー幼稚園教育要領の「環境」「表現」を中心に造形活動を行ってきた。 ・発展一講師による造形あそびでいろいろな素材や技法による個性豊かな表現、園庭やホールでの学年でのダイナミックな活動により「環境」「表現」の体験の質が高まった。のびのびと活動し、充実感を味わうことで「健康」に、みんなで活動することによりイメージの共有、考えを出し合う、協同性の発揮など「人間関係」にかかわる体験をし、「表現」のみならず「言葉」の育ちもみられた。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ・活動回数を減らし、活動時間外の日常保育でも継続または発展した活動をできるように時間的な余裕やゆとりを持たせた。 ・学年のみの活動だけでなく、ワークショップのように異年齢活動が展開できるように他学年でもやってみる、自由遊びの時間に一緒に活動する機会を設ける。 ・日常保育の中に造形活動を広げていくための保育研修会や書籍購入による研究をする。 ・松枝講師以外の造形活動を実施予定。SDGsで取り上げる外国のアートに触れ、興味と関心を広げ、表現意欲を深める。
		事業実績から推測される効果や改善点等 ・年間の活動回数は適正だったが、昨年から減らした分日常の保育での継続・発展は4歳児の紙粘土の顔飾り壁かけでは続きの作業や仕上げに、5歳児では各活動がグループワークへとつながったが、1回完結の活動が多かった。・5歳児の紙コップタワーは、4・5歳児の自由遊びや預かり保育でも行われた。ワークショップの顔出しパネルは夏休み後に展示し、遊んだり、写真を撮るなどしたが、製作にはつながらなかった。時間と場所の必要性を感じた。・保育研修会は適当なものがなく参加せずに書籍を参考とした。松枝講師以外の造形活動はSDGsの「世界タッチ」の教材「せかいボックス」を使いアフリカンマスクづくりを行う。映像や実物を見ながらマーカーで色づけしてマスクをつくる。原色使いのマスクに影響をうけ、カラフルなマスクができた。映像や音楽を流しながら、マスクをかぶり、アフリカダンスを楽しんだ。マスクをかぶり、アフリカの子どもたちとのオンライン交流に預かり保育の子どもたちが参加した。踊るなどの活動により、表現意欲は深まった。今後も、つくる・表現する楽しさを体験できる活動をしていきたい。
計画時	7 環境構成例	・活動内容に応じた素材、材料、画材、道具を用意する。 (ダンボール、新聞紙、紙コップ、廃材、シール、木切れ、ビーズ、ストロー、えのぐ、シャボン液、紙粘土、ガムテープ、接着剤、ハサミ、カッターなど) ・クラス、園庭、2階ホールなどで活動する。 ・活動に応じ、担任以外に保育助手2名や職員室職員が援助する。 ワークショップでは保護者や兄・姉、家族と一緒に活動・援助する。 ・1回の活動時間は年齢に応じ、40分から70分程度とする。 時間内に終わらない場合は、自由遊びや他の保育時間を使用する。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・活動内容に応じた素材、材料を準備できた。画材は、えのぐと筆以外に普段使っている物を使用した。素材の種類と数も子どもたちが選ぶのに多すぎず、適当だった。カッターは3歳児は使わないようにし、年齢に応じ、予め材料を切るなどし、作りやすくなり、活動時間の短縮を心がけた。・活動場所は広さや使いやすさ、集中しやすさなど適切だった。・各活動の保育者、補助者などの人員も適正だった。ワークショップは保護者や兄・姉なども協力して園児だけでは出来ない作品づくりや活動が出来た。異年齢交流も生まれた。・活動時間は十分にとったが、片付けの時間が足りなかった。片付けの時間まで想定し、活動時間を考えていきたい。3学期の作って遊ぶ活動は、遊ぶことに重点をおき、簡単に作って楽しめるものとしたのが良かった。遊ぶ中で工夫したり、コツを掴んだり、何度も遊びを繰り返し、試す、考える、あきらめないで挑戦する姿が見られた。

計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・主体的にいろいろな素材などの環境にかかわり、のびのび活動することで、個性や想像力、自由な表現力が発揮される。 ・指絵の具や紙粘土、新聞紙など素材に触れながら、感性が刺激され、素材を使つての創作イメージが膨らみ、いろいろな活動、造形表現が見られる。 ・色や形、素材に興味や関心を持ち、想像・創造力を発揮し、いろいろなものを作りだす意欲が育まれる。 ・作ったもので遊ぶ楽しさを知る。試したり、考えたりしながら競争して(シャボン玉や飛行機のとばしっこなど)して遊ぶ姿が見られる。 ・友だちと協力し、協同性を発揮し、やりなおしたり最後までやりとげようとする力(レジリエンス)が見られ、一つのものを作り上げる満足感をあじわう。 ・ワークショップの親子(家族)参加によって、親子でイメージを共有し、協力してモノづくりをする楽しさをあじわい、コミュニケーションが深まる。
	事業後	事業実績から推測される効果や改善点等 ・毎回、作るものや使用する素材・材料に魅力があり、講師の導入も巧みで、子どもたちの興味や関心、つくる意欲を喚起してから活動が始まる。場所や使う素材を考え、のびのび活動でき、思い思いに自由に表現できるよう子どもたちの良さや個性を引き出しながら活動が行えた。・五感を刺激し、自由に形作れる素材で身近にあるものを使い想像力やイメージが広がる。・活動は講師発案が多いが、4歳児の紙粘土のお団子で顔を表現する活動は保育者が子どもたちと楽しんだ絵本をヒントに考えた。素材や活動の提示など、工夫を凝らすことで子どもたちのつくる意欲が高められた。・3, 4, 5歳児の3学期の造形は、試しながら、工夫し、考えながら繰り返し遊ぶ時間を長くする活動で、友だちと一緒に楽しんだり、競争しながら、遊びのコツをつかんでいく姿が見られた。・学年合同で行う活動は個々に楽しんだからグループや近くにいる友だちと協力したり、思いを出し合いながら遊ぶ活動に発展し、協同性も発揮された。崩れても何度も挑戦し積み上げる紙コップタワーはレジリエンスを育んだ。・ワークショップではイメージの共有や共同作業により参加者同士のコミュニケーションが深まった。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・4月に講師と相談し、年齢ごとに活動内容を決めているが、経験の連続性・活動の効果を検討した結果、毎年同じような活動内容になってしまう。使う素材は同じでも活動内容を変える工夫が今後の課題である。今年度の保育者発案の4歳児の紙粘土を使った活動は、今後、活動を考えていく上での参考となる。・他の特色ある保育事業との兼ね合いで生まれた絵本から広がる4歳児の紙粘土の活動やSDGsプログラムを活用してのアフリカマスクづくりとダンスは造形表現の幅が広がり、良い経験となった。・子どもたちが楽しんで、自ら活動に参加するよう作りたいという気持ち(主体性)を大切に全ての活動を行った。のびのびと個性を発揮して表現活動を楽しむことができた。・共同で行う活動やワークショップで、想像力、協同性、コミュニケーション力などが育まれた。日常の保育の中で、異年齢合同で活動する場を設けることが今後の課題である。・1学期の3歳児のフィンガーペインティングから4, 5歳児の落書きあそびは、えのぐを使つての経験のつながり、発展であり、3学期の作ったもので遊ぶ体験は、自力で作る自信や何度も遊びながら工夫を凝らし、最後までやり遂げる力を育むものである。2学期の造形活動を作品展へとつなぎ、造形講師の参加で表現の幅を広げたい。3年間の活動を終え、今後は、新たな活動にもチャレンジし、日常の中で自由に作る楽しさを味わえる保育を心がけていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。